

地域とともに育つ 心豊かでたくましい上志比っ子

吉田郡永平寺町 上志比小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	1回
地域及び家庭への学校公開	19回 (のべ) 23日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	30人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	100人
登下校支援ボランティア	2550人
その他 (学年活動・交通安全教室)	12人

2 学校の状況

上志比地区は、国道416号線(勝山街道)に沿い、永平寺町の東部に位置する中山間地である。校区内には約850の戸数があるが、近年高齢化が進み、児童数は減少傾向にある。しかし、地域の教育に対する関心は非常に高く、地域住民や各種団体と学校との連携・協力体制が整っている。

平成20年度からの4年間、福井大学の准教授のご指導のもと、「対話型学習」の研究を行ってきた。

また、学校体育や放課後の陸上クラブにも力を入れており、平成20年度福井県学校体育研究優良校・平成22年度町長特別表彰を受けた。



(第1回 地域・学校協議会)

3 「地域・学校協議会」の設置と運営

(1) 「地域・学校協議会」の構成

- ① 読み聞かせグループ「お話1.2.3」代表
- ② 上志比地区民生児童委員
- ③ 上志比児童館指導員 (元教員)
- ④ 上志比幼稚園長
- ⑤ 上志比中学校PTA副会長
- ⑥ 上志比小学校PTA会長
- ⑦ 校長
- ⑧ 教頭
- ⑨ 教務主任

(2) 協議会の開催計画

- 第1回 (6月)
本会の趣旨・スクールプラン・学校の概要・年間行事計画等についての説明と意見交換
- 第2回 (12月)
1,2学期の成果と課題について
- 第3回 (3月)
学校評価の結果と分析・次年度に向けての取り組みについて

テーマ 「 心の教育の充実 」

<テーマにそった具体的な取り組みについて>

- ① 自然体験や文化活動など、豊かな心を育てる取組
- ② 地域と連携したボランティア活動

4 取り組みの計画

(1) 重点事項

- ① 地域の人材等を積極的に活用し、学校の教育力向上に努める。
- ② 家庭・地域・学校の連携を深め、各種行事に協力して取り組む。
- ③ 幼・小並びに小・中の連携を深め、一貫した教育体制の充実を図る。
- ④ 学校評価を的確に行い、地域に根ざした学校づくりに取り組む。

5 取り組みの概要

(1) 地域・学校協議会における協議内容

第1回(5月30日開催)

- 福井型コミュニティ・スクール推進事業や地域・学校協議会の概要について
- 平成23年度の教育方針について
- 家庭・地域・学校の連携に関する取組み(地域の人材活用・地域の安全確保)について

第2回(12月1日開催)

- 平成23年度の主な行事の結果について
- 平成23年度の各大会・コンクールの成績・入賞者について
- 第3学期の諸行事について

第3回(3月6日開催)

- 児童・保護者・教職員アンケートの集計結果について
- 地域・学校協議会としての学校評価と来年度への生かし方について

(2) 地域と連携した特色ある活動

①園児やお年寄りとの交流

学校に隣接している「やすらぎの郷」を訪れたり、地区内の養護老人施設「ひかり苑」のお年寄りの方との交流を深めている。校内体育大会にも招待をして、一緒に競技を楽しんでもらうようにもしている。

②学校農園や学校田

学校近くの畑や休耕田をお借りし、1年生はサツマイモ、2年生はトマト・サツマイモ・ナス・トウモロコシ・キュウリ、3年生は大豆、4年生は大豆・ぼっちゃんカボチャ、5年生と6年生はコシヒカリの栽培を行った。農業ボランティアとして保護者や地域の方に呼びかけて参加していただき、上手に野菜や米づくりをするための方法を教えていただいた。



③感謝の集い

児童の登下校時における見守り隊や読み聞かせボランティア・駐在所の所長さんなど、日頃からお世話になっている方々の存在を知り、自分たちのために力を尽くしてくださっていることに感謝の気持ちを表すため、児童会が中心となって「感謝の集い」を実施した。低学年が手作りのメダル・中学年が花かざり・高学年が感謝の作文を担当し、みんなで感謝の気持ちを表せるよう工夫した。



6 成果と課題

(1) 成果について

- 家庭や地域の人々と関わる活動を多く取り入れたことにより、子ども達は多くの方々と笑顔で接することができるようになってきた。平成23・24年度のJRC福祉活動推進校でもあり、お年寄りや園児たちとの交流が積極的になってきた。また、農業を中心としたボランティアの方々の参加が昨年より増え、学校と地域がより近くなってきた。
- 学校評価の保護者アンケートの結果、ほぼ全員から「学校は、児童の様子や学校の教育活動についてよく伝えている」「保護者からの意見に耳を傾け、適切な対応を取ったり図ったりしている」という回答を得ることができた。地域・学校協議会を核として、学校の取組みに対する率直な意見が得られ、家庭・地域と学校との連携強化の機運が相互に高まった。

(2) 課題および次年度に向けて

- 教育活動の充実のために、地域の優れた人材を発掘し外部講師として生かす授業を指導計画の中に位置づけるなど、地域のネットワーク資源の一層の促進を図っていく必要がある。